

JSTHE 2026 年度 第 2 回研究会 実施要項

観光系ゼミナールの現在地－教育実践・運営・学生との関わりを考える

2026 年 9 月

日本観光ホスピタリティ教育学会 研究事業委員会

観光系ゼミナールでは、輪読や文献研究、卒業研究といった学術的な活動に加え、地域や観光事業者、自治体等と連携したフィールドワーク、イベント、商品開発など、大学外部と関わる多様な活動が行われています。こうした実践的な活動は、学生が教室で得た知識を実社会の課題と結びつけ、主体的に学ぶ機会となる一方で、活動そのものが目的化し、学生にとって「楽しかった」という経験だけで終わってしまう可能性も指摘されています。また、地域や企業との連携において学生が単に業務や活動を支援するだけになっていないか、プロジェクト活動を卒業研究などの学術的な学びにどのように接続するか、その教育効果をどのように捉え、評価するかといった課題も存在します。

そこで本研究会では、観光系ゼミナールにおける多様な教育実践と運営の現状や課題を共有し、研究活動と実践的なプロジェクト活動との接続、地域・企業等との連携、教員の関わり方、教育成果の評価などについて議論します。その上で、これらの活動が学生の学びや成長にどのような意味をもつのかを検討し、「観光系ゼミナールだからこそできる教育とは何か」という問いを参加者とともに考えることを通じて、観光教育におけるゼミナールの役割と今後のあり方を展望します。

対面・オンラインのいずれでもご参加いただけます。会員・非会員を問わず、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

1. 開催概要

開催日時	2026 年 11 月 14 日（土） 15:00～17:30
会 場	文教大学 東京あだちキャンパス 1202 教室もしくは 1206 教室（教室は調整中） 〒121-8577 東京都足立区花畑 5-6-1
開催方法	対面＋オンライン（ハイブリッド開催／Zoom 使用）
研究会テーマ	観光系ゼミナールの現在地－教育実践・運営・学生との関わりを考える
主 催	日本観光ホスピタリティ教育学会（JSTHE） 担当：研究事業委員会
参加費	無料（会員・非会員を問わずご参加いただけます）

2. プログラム

時 間	内 容
15:00～15:10	開会の辞・趣旨説明 開会の辞：福本 賢太（阪南大学 国際学部 教授／本学会副会長） 総合司会：山田 祐子（駿河台大学／本学会幹事）
15:10～16:06 【第 1 部】	ショート事例紹介（発表 12 分＋入替 2 分 計 14 分×4 名） A：永石 尚子 氏（和光大学／本学会会員） 「相手の声を聴き、価値を創る」 B：松岡 友子 氏（駒沢女子大学／本学会会員） 研究とフィールドワークや学外活動を接続したゼミナール実践 C：熊井 昭子 氏（聖徳大学／本学会会員） 地域・自治体・企業との連携によるゼミナール実践 D：種村 聡子 氏（文教大学／本学会理事） ゼミ交流と学外への発信を取り入れたゼミナール実践
16:06～16:20	休憩

16:20～17:20 【第2部】	パネルディスカッション（60分） 進行役：永石 尚子 氏（和光大学／本学会会員） 登壇者・参加者による討議。フロアからのご質問・ご意見も歓迎します。論点は例として以下を想定。 （例）学生の主体性は、どこまで学生に任せれば育つのか （例）地域・企業連携は、本当に学生の学びにつながっているのか （例）ゼミ活動に教員はどこまで介入すべきか （例）ゼミ活動の成果をどう評価するか
17:20～17:30	総括・閉会の辞 中村 哲（本学会会長／玉川大学 教授）

- ※ 各セッションの時間配分は、今後の調整により変更となる場合があります。
- ※ 各登壇者の発表タイトル・プロフィールの詳細は別紙をご参照ください。
- ※ パネルディスカッションの時間（60分）は、進行状況に応じて短縮する可能性があります。
- ※ 会場教室（1202／1206）は確定次第、追ってご案内します。

3. 参加申込

参加をご希望の方は、学会ウェブサイトの申込フォームまたは学会事務局（jimu@jsthe.org）宛てメールにて、①お名前、②ご所属、③参加方法（対面／オンライン）をお知らせください。オンライン参加者には、開催前日までにZoomの接続情報をご案内します。申込締切は確定次第ご案内します。

※ 第2部の議論を活性化するため、申込フォームに「現在、ゼミナールの運営で困っていること・他大学の教員に聞いてみたいこと」を任意記入いただく欄を設けることを検討しています（当日、司会より一部をご紹介する想定）。

4. 会場利用に関する注意事項

文教大学 東京あだちキャンパスでの飲食・Wi-Fi等に関する会場ルールは確認中です。確定次第、本要項に追記の上、改めてご案内します。

【別紙】登壇者紹介

JSTHE 2026 年度 第 2 回研究会（2026 年 11 月 14 日／文教大学 東京あだちキャンパス）

【第 1 部】ショート事例紹介（各 14 分：発表 12 分＋入替 2 分）

「相手の声を聴き、価値を創る」

— 課題解決コンテストを通じたホスピタリティと仕事のプロセスの実践的学習 —

永石 尚子 氏（和光大学／本学会会員）

和光大学経済経営学部教授、千代田インテグレ株式会社社外取締役。経営科学を専門とし、大学での研究・教育と企業経営の両面から「人」と「サービス」のマネジメントを探究している。京都大学経営管理大学院博士課程修了、博士（経営科学）。京都大学経営管理大学院（MBA）、青山学院大学大学院（MBA）、明治学院大学大学院法と経営学研究科で非常勤講師を担当。ANA 国際線客室乗務員、ANA 総合研究所客員研究員として、合わせて 27 年にわたり ANA グループに携わる。

研究とフィールドワークや学外活動を接続したゼミナール実践

— 輪読で得た知識をフィールドでの学びへどのようにつなげるか —

松岡 友子 氏（駒沢女子大学／本学会会員）

駒沢女子大学観光文化学部観光文化学科准教授。早稲田大学第一文学部卒業後、全日本空輸株式会社の国際線客室乗務員として 10 年半勤務。その後研修講師として 15 年登壇。岩崎学園情報科学専門学校、戸板女子短期大学非常勤講師、東京経営短期大学専任講師（キャリアセンター）を経て 2025 年 4 月より現職。専門は女性キャリアとキャリアマネジメント、日本語教育。横浜市立大学大学院都市社会文化研究科修士（学術）。

地域・自治体・企業との連携によるゼミナール実践

— 外部とのプロジェクト活動を学生の学びにどうつなげるか —

熊井 昭子 氏（聖徳大学／本学会会員）

聖徳大学文学部文学科教養デザインコース准教授。法政大学大学院修士（キャリアデザイン学）。航空会社客室乗務員としてオーストラリア航空との共同運航便でチーフパーサー業務を担当。退職後、株式会社 ANA 総合研究所客員研究員、青山学院女子短期大学キャリアセンター臨時職員、明星大学非常勤講師を経て、2020 年 4 月より現職。専門はキャリアデザイン、ホスピタリティ、観光、地域創生。

ゼミ交流と学外への発信を取り入れたゼミナール実践

— 合同ゼミ、ツーリズム EXPO ジャパン、SNS 等を学生の学びにどうつなげるか —

種村 聡子 氏（文教大学／本学会理事）

文教大学国際学部国際観光学科准教授。大学卒業後、全日本空輸株式会社に客室乗務員として 13 年半勤務。その後、株式会社 ANA 総合研究所客員研究員、武蔵大学助教、川村学園女子大学講師を経て 2021 年 4 月から現職。専門は人的資源管理、ホスピタリティマネジメント、観光リカレント教育。研究テーマは観光、観光分野の人材育成と人材管理。北陸先端科学技術大学院大学博士（知識科学）。

【第 2 部】参加型ディスカッション

進行役：永石 尚子 氏（和光大学／本学会会員）

※ 上記のタイトル・プロフィールは登壇者からご提出いただいた内容に基づいています。発表題目には仮題を含みます。